

注 意 報

長崎県病虫害防除所長

令和7年度病虫害発生予察 注意報第1号

早期・普通期水稻 穂吸汁性カメムシ類

1. 発生地域（対象地域） 県下全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 7月前期（7月14日時点）の巡回調査における穂吸汁性カメムシ類の雑草地すくい取り調査（24地点）の結果、捕虫網による10回すくいとり当り虫数（イネカメムシを除く）は7.0頭（平年 5.8頭）と平年よりやや多く、発生地点率は87.5%（同 87.6%）であった。種別ではホソハリカメムシ及びアカスジカスミカメが主体であり、斑点米産出能力の高い大型カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ）の発生が多い（表）。
- (2) 近年発生が顕在化しており、全国的に被害が問題となっているイネカメムシについて、県内各地域で発生を確認している。
- (3) 斑点米カメムシ類主要4種の予察灯誘殺数は、平年より多く推移している（図）。
- (4) 気象予報（福岡管区气象台、令和7年7月10日発表）によると、向こう1か月の気温は平年よりかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

表 穂吸汁性カメムシ類雑草地すくい取り調査における発生状況（令和7年7月前期巡回調査）

種類別	10回すくいとり当り虫数(頭)						発生地点率(%)		
	R2	R3	R4	R5	R6	平年	R7	平年	R7
ホソハリカメムシ	0.8	0.3	0.8	0.3	0.8	0.6	2.2	57.5	79.2
クモヘリカメムシ	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	0.3	17.8	20.8
シラホシカメムシ	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	21.9	54.2
アカスジカスミカメ	1.8	2.8	7.0	2.5	2.2	5.0	4.3	73.6	79.2
ミナミアオカメムシ	0.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	6.5	4.2
イネカメムシ	—	—	—	—	0	—	0.3	0	12.5
計(イネカメを除く)	2.8	3.2	8.1	2.9	3.2	5.8	7.0	87.6	87.5

注) — はデータなし。イネカメムシの調査はR6年から開始のため、過去や平年の数値はない。

注) 平年との比較のため、イネカメムシは合計値から除く。

Figure 1 is a line graph illustrating the number of cases (Y-axis, 0 to 300) over time (X-axis, June to September). The graph compares three data series: R7 (solid line with black circles), R6 (dashed line with open triangles), and 平年 (dashed line with open circles). R7 shows a sharp increase in June, peaking at approximately 280 cases. R6 shows a significant peak in August, reaching nearly 280 cases. 平年 shows a more gradual increase, peaking at around 130 cases in August.

2. 防除対策

- (1) カメムシ類の飛来・増殖源である圃場内外のイネ科雑草の除去等、圃場環境整備に努める。
なお、水稻の出穂１０日前以降の畦畔等の除草はカメムシ類の圃場内への侵入を助長するので避ける。
- (2) 防除は穂揃期とその７～１０日後の２回防除が基本であるが、その後も圃場内で生存虫や新たな侵入が認められる場合はさらに追加防除を実施する。
- (3) 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布を行うと効果が高い。
- (4) イネカメムシは出穂直後から本田へ飛来して吸汁加害するため、防除適期は出穂直後とその７～１０日後であり、他の斑点米カメムシ類の防除適期と異なるので注意する。
- (5) 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境（ミツバチや水産動植物等）に配慮し、薬剤の飛散に十分注意する。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

